

関西大学独逸文学会分会報告

その他のタイトル	Bericht über die Tätigkeit der Unterabteilung unserer Gesellschaft für Germanistik der Kansai Universität
著者	佐藤 裕子
雑誌名	独逸文学
巻	55
ページ	77-78
発行年	2011-03-20
URL	http://hdl.handle.net/10112/00018020

関西大学独逸文学会分会報告

佐藤 裕子

12月18日、2010年度の「分会」が開かれた。今年のテーマは、前半が「留学ライブ」、後半がクリスマスパーティを兼ねた懇親会ということになった。ドイツ学専修は、毎年、ドイツ、スイスの提携大学に交換留学生を送っているが、現在の在學生の中にも留学を考えている、あるいはすでに秋学期からの留学が決まっている学生がいる。今回は、テーマを「留学」とし、交換留学から帰国した学生に、費用、住まいなど実際的なことはもちろん、他所では聞けない本音の留学体験記を話してもらい、聞いている学生たちと質疑応答を含めて様々なことを話し合う機会としようということになった。発表者は以下のとおりである：

ゲッティンゲン大学—岡本啓一郎君、三仲順子さん、ケルン大学—藤田恵莉さん、コンスタンツ大学—吉田紘子さん

学生たちからも、費用や、奨学金、住まいなどに関して活発な質問が出たが、質疑応答の際には、田中みどりさん（ゲッティンゲン大学）、前原小百合さん（コンスタンツ大学）たちも加わり、自らの体験によって得た知識を独文の後輩たちに伝えた。試練や挫折、楽しみも含めた、それぞれがかげがえのない青春の体験であり、成長の時間であったと確信した。そして、現在留学中のニュルンベルク・エアランゲン大学の楠本尚子さんと流暢な日本語を話すドイツ人学生のダニエル君も、スカイプによるテレビ電話で会に加わり、ドイツと関大同時進行トークという、貴重で楽しい機会を持つことができた。

後半は、レストラン「チルコロ」に場所を移しドイツ人留学生やネイティブの先生も招いて、参加者が仮装、コスプレ、フェースペインティングなどをし、クリスマスパーティ+カーニバルというドイツの賑やかな祝祭が合体した催しとなった。今回、準備の時間が短かったこともあり、分会実行委員となった学生たちは勉強やアルバイトの合間を縫っ

て、何度もミーティングを重ね、様々な予期せぬ困難を乗り越えて開催にこぎつけた。特に実行委員長岡本君にはリーダーとしてオーガニゼーション、宣伝、レストランとの交渉その他、大変お世話になった。また、スカイプの通信では予期せぬハプニングの連続であったが、そのコーナーの司会も務めた吉川梨香さんがテクニカルなトラブルを解決して、まさに「留学ライブ」を実現させた。その他、実行委員として準備や当日の運営に参加し、さまざまなアイデアを出してコンセプトを作り、今回の分会を成功に導いてくれた学生の皆さん、参加してパーティを盛り上げてくれた皆さんに心よりお礼を申し上げます。上に名前が出た学生に加えて、ここに実行委員の名前を記す。(順不同) 本岡真実さん、岡加奈容さん、西川知里さん、堀田麻衣さん(司会進行) 田口美佳さん(司会進行)、三木ありささん、小牟禮真理子さん、川辺崇史君。